



---

株式会社fonfun 第14期中間決算説明会

Bridge IT and Your life

---

～2010年3月期第2四半期業績概要～

## ハイライト&トピックス

---

1. 黒字転換
  - 月次ベースで全月黒字化を達成
  - 中間ベースでほぼ計画通りに推移
2. 第二次事業再編
  - エンコード事業譲渡
  - EC事業からの撤退
3. リモートメール堅調
  - 携帯電話ショップでの店頭販促が好調
  - 端末へのプリインストール
4. スマートフォンに参入
  - 4サイト(現時点で5サイト)サービスイン
  - OEM展開も視野
5. 新規コンテンツ投入
  - 3サイト(現時点で6サイト)サービスイン

## 業績の概要

- ・当期に入り、エンコード事業の売上が半減(→10月に事業譲渡)。
- ・リモートメールの店頭販促、OEM提供などでカバーするが売上、利益ともに期首計画を若干下回る。
- ・事業再編による退職金引当等で特別損失発生するが、保有株式売却で特別利益計上があり、当期利益は期首計画より微増。

(単位:百万円)

	09/9期(単体)	08/9期(単体)	08/9期(連結)	期首予想値	達成率
売上高	555	1,199	1,368	590	94.1%
営業損益	19	-95	-190	20	—
経常損益	12	-77	-187	20	—
四半期純損益	23	-213	-568	20	—

## 業績の前期比較

(単位:百万円)

	09/9期(単体)	08/9期(単体)	08/9期(連結)	前期率(単体)	要因分析
売上高	555	1,199	1,368	-53.7%	事業再編によるB to B関連事業減少
売上総利益	394	482	626	-18.3%	
販管費	375	578	817	-35.1%	人員減、経費節減により販管費が大幅減少
営業損益	19	-95	-190	-	不採算事業からの撤退により営業黒字化
経常損益	12	-77	-187	-	
四半期純損益	23	-213	-568	-	保有有価証券売却により特益、人員削減による特別退職費用計上により特損

## ■ 事業部門別売上高

- ・リモートメール事業 → 店頭販促、OEMなどが好調で売上増加。
- ・コンテンツ事業 → パッケージ事業の中止により売上減少。
- ・ソリューション事業 → SI事業からの撤退及びエンコード事業受注不振で売上減少。
- ・その他事業 → 事業再編により、テレマーケティング事業、店舗販売事業、メディア・ポータル事業から撤退。

(単位:百万円)

	09/9期(単体)		08/9期(単体)		08/9期(連結)		前年同期比(単体)	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
リモートメール事業	400	72.1%	347	28.9%	347	32.0%	53	15.3%
コンテンツ事業	118	21.3%	240	20.0%	238	11.0%	-122	-50.8%
ソリューション事業	35	6.3%	108	9.0%	163	3.0%	-73	-67.6%
その他事業	—	—	502	41.9%	618	26.0%	—	—
計	555	100.0%	1,199	100.0%	1,368	100.0%	-644	-53.7%

※前期と当期で事業区分の組み換えを行っており、前期数字を当期区分に対応して修正しております。

## 貸借対照表

・流動資産は減少するも純資産は増加。

(単位:百万円)

	09/9末		09/3末	
	単体		単体	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	482	38.7%	658	53.2%
現預金	165		304	
売掛金	261		285	
たな卸資産	5		8	
その他	50		60	
固定資産	762	61.3%	579	46.8%
有形固定資産	78		97	
無形固定資産	239		244	
投資その他の資産	443		238	
繰延資産	0		0	
総資産	1,244	100.0%	1,238	100.0%

(単位:百万円)

	09/9末		09/3末	
	単体		単体	
	金額	構成比	金額	構成比
負債合計	604	48.6%	625	50.5%
流動負債	511	41.1%	528	42.6%
買掛金	19		26	
短期借入金	392		350	
未払金	59		73	
その他	39		77	
固定負債	92	7.4%	97	7.8%
長期借入金	67		71	
その他	25		25	
純資産合計	640	51.4%	613	49.5%
資本金	2,191	176.1%	2,191	177.0%
資本剰余金	585	47.0%	585	47.3%
利益剰余金	-1,963	-157.8%	-1,987	-160.5%
自己株式	-172	-13.8%	-172	-13.9%
評価・換算差額等	0	0.0%	-4	-0.3%
新株予約権	0	0.0%	1	0.1%
負債・純資産合計	1,244	100.0%	1,238	100.0%

※前期比較は連結と単体で分かりにくいいため、前期末時点の単体との比較で行っております。

## キャッシュフロー

(単位:百万円)

	09/9期	08/9期
営業キャッシュ・フロー	21	-34
投資キャッシュ・フロー	-345	-304
財務キャッシュ・フロー	35	84
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の期末残高	15	889

### ●営業キャッシュ・フロー

税引前四半期純利益25百万円、売上債権の減少24百万円、未払費用の減少43百万円が要因。

### ●投資キャッシュ・フロー

貸付による支出214百万円、拘束性預金の増加150百万円が要因。

### ●財務キャッシュ・フロー

短期借入金の増加が主要因。

(単位:百万円)

	09/9期	08/9期
税金等調整前四半期純利益	25	-554
減価償却費	28	80
売上債権の増減額	24	193
仕入債務の増減額	-7	-48
その他	-5	-5
小計	32	-23
利息・配当金受払	-7	0
法人税等支払	-4	-3
営業CF計	21	-34

## ■ ■ これまでの経緯

---

2005年3月期に大幅に業績が悪化した要因は、当社の主力サービスである『リモートメール』に依存し過ぎたため。



この反省を踏まえ、2006年3月以降は、自社もしくはM&Aによる新規事業の立ち上げに注力(売上の拡大と複数事業によるリスク分散を図る)。



売上は予定通り順調に拡大したが、どうしても先行投資が必要なため、利益を圧迫。業界環境の変化により、買収子会社で営んでいた携帯販売事業が業績不振へ。



景気後退がB to B事業の受注に影響、先行投資の継続は厳しいと判断。売上拡大路線から営業キャッシュフロー重視施策へ切り替え、グループ・事業の再編へ着手。



当期は月次ベース、第2四半期ベースともに黒字化達成。

第2四半期実績(売上:555百万円、営業利益19百万円)

## ■ 業績悪化の要因について

---

### 2008年3月期の業績悪化要因

#### ➡ 買収した携帯販売子会社の業績不振

2007年秋に実施された販売奨励金制度の見直しの実施により、端末価格が高額化したことにより買い控えが発生。また端末価格が一本化されたことで値段を売りにしてきた携帯販売子会社の販売が減少。(これに伴う暖簾代償却などの特別損失も計上)

### 2009年3月期の業績悪化要因

#### ➡ 携帯販売子会社の業績不振継続、単体のB to B事業の受注不振 事業再編によるグループ各社の整理

携帯販売事業環境が改善せず継続して業績不振、店舗縮小に着手。  
景気後退により企業の設備投資予算に変化が生じ、見込み大型案件が受注に至らず。  
秋口からの事業再編によるグループ各社の整理損が発生。

**※ドメイン事業(携帯サービス)そのものが業績不振になっているわけではありません。**

## ■ 前期第3四半期からの動き

「売上拡大→営業キャッシュフロー重視」への経営基本方針の変更と、「複数事業でリスク分散→事業ドメインを明確にして経営資源を集約」のコンセプトに基づく、グループ及び事業の再編の実施

- 2008年12月 : カウネット(オフィス通販)事業譲渡 ←リアル営業販売事業
- 2008年12月 : 上海網村(中国現地子会社)株式譲渡 ←メディア・ポータル事業
- 2009年 1月 : パッケージ事業譲渡 ←コンテンツ事業の一部
- 2009年 1月 : SI・受託開発事業撤退決定 ←ソリューション事業の一部
- 2009年 3月 : GCI株式譲渡 ←リアル営業販売事業
- 2009年 3月 : 合肥網村清算決定 ←ソリューション事業の一部  
NVソフト清算決定 ←コンテンツ事業の一部
- 2009年10月 : エンコード事業譲渡 ←ソリューション事業
- 2009年11月 : 光通信と資本・業務提携

～2010年3月期 業績予想～

## ■ ■ 当期期首の方針と進捗状況

### <基本方針>

- 3事業で、それぞれ着実に数字を積み上げて、黒字化を図る。
- 勝機に備えたサービス企画・研究開発を進める。

### <事業方針>

	期首方針	進捗状況
リモートメール事業	<ul style="list-style-type: none"><li>・サービス内容の改善と新サービスの投入</li><li>・システム安定運用のための設備見直し</li><li>・店頭販促及びデジタルアフィリエイトの促進</li></ul>	ほぼ予定通り順調に推移
コンテンツ事業	<ul style="list-style-type: none"><li>・新規コンテンツの継続投入及び販促強化</li></ul>	予定より遅れあり
エンコード事業	<ul style="list-style-type: none"><li>・PC以外の分野の営業強化</li><li>・新規クライアント開拓とコスト競争力促進</li></ul>	売上減少により事業譲渡

## 業績予想

(単位: 百万円)

	10/3期予想(単体)	09/3期実績(単体)	09/3期実績(連結)	増減額
売上高	1,200	2,078	2,395	-878
営業損益	50	-194	-356	244
経常損益	50	-170	-372	220
四半期純損益	50	-1,703	-1,680	1,753

## ■ 事業部門別売上計画

- ・リモートメール事業は、販促効果やOEM好調により増益見込み。
- ・コンテンツ事業は、パッケージ事業の撤退もあり前期比減少予定。
- ・ソリューション事業は、エンコード事業譲渡により前期比減少予定。
- ・その他事業は、事業撤退したテレマーケティング事業、店舗販売事業、メディア・ポータル事業。

(単位:百万円)

	10/3期(予想)	09/3期(単体)	09/3期(連結)	増減率
リモートメール事業	708	695	695	1.9%
コンテンツ事業	352	400	400	-12.0%
ソリューション事業	140	207	293	-32.4%
その他事業	-	776	1,007	-
計	1,200	2,078	2,395	-42.3%



---

## ～今後の方針～

## 今後の方針

---

### 1. 更なるスリム化

- ・事業再編と平行して人員減と費用節減を実現
- ・オフィス移転

### 2. 携帯サービスへ集中

- ・事業再編の継続
- ・単体ではインターネット対応携帯電話(i-mode、EZweb、Yahoo!ケータイ、AIR-EDGE、iPhone/iPod touch)向けサービス以外は行わない

### 3. 企画・開発に特化

- ・強みを生かせる分野を伸ばす
- ・営業は強いパートナーと提携にて実施

## ■ 光通信社との提携について

---

### <概要>

- 光通信と共同出資の合弁会社(弊社子会社)を設立、fonfunが企画・開発する商材を光通信の全国の営業網を通じて販売(第一弾としてリモートメールを核とした総合ツールサービス)。
- fonfunが光通信に対して第三者割当増資を実施(済)することで提携関係の強化を図る。

### <提携効果>

- 新サービスについて月間5万件(個人45,000、法人5,000)の獲得を目指す。
- お互いのノウハウを生かした共同事業の運営でベースとなる安定収益を稼ぐ。

## ■ ■ 最後に・・・

---

「ITを駆使して世界に通用する境界無きビジネスモデルを追求し、『便利』と『楽しい』をキーワードに時代と顧客のニーズに合致した革新的なサービスを提供する。」

それが、株式会社fonfunの経営方針です。

この方針に基づく様々なビジネスを通じて、今後も収益の拡大・高品質のサービス提供を行っていくとともに、株主価値の向上に努めてまいります。

代表取締役 三浦浩之

【IR関連窓口】 [ir@fonfun.co.jp](mailto:ir@fonfun.co.jp)

経営管理部 統括 : 佐藤

経営管理部 IR担当 : 宮澤

～会社概要～

## ■ ■ 会社概要

---

- 商号 株式会社fonfun(英訳名 fonfun corporation)
- 設立 1997年3月3日
- 上場日 2002年9月19日
- 市場 大阪証券取引所 ヘラクレス(スタンダード) 証券コード:2323
- 所在地 東京都渋谷区初台1-46-3 シモモトビル6階
- 代表者 三浦 浩之(代表取締役社長)
- 事業内容 リモートメール事業  
コンテンツ事業
- 従業員 40名(うち準社員8名含む)
- 資本金 22億42百万円
- 発行済株式数 2,661,720株(単元株数:100株)
- 株主数 2,763名(2009年10月末時点)

※2009年11月16日現在

## ■ ■ 会社沿革

---

1997年 3月 : 会社設立

6月 : KDDIと業務提携

1998年10月 : 通産省より特定新規事業認定取得(同業では『Yahoo』に次ぐ)

1999年 6月 : iモード向け『リモートメール』スタート

2002年 6月 : モバイルエンターテインメントコンテンツの提供開始

9月 : 大証ヘラクレス市場に株式上場

2003年 8月 : 中国PHS・携帯向けコンテンツ提供開始

2004年10月 : 代表取締役の変更(飯田祥一氏→三浦浩之)

2005年 7月 : 本店移転(渋谷区初台)

2006年10月 : ネットビレッジ株式会社から株式会社fonfunへ社名変更

### <主要取引先>

NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイル、WILLCOM、富士ゼロックス、アッカネット  
ワークス

## ■ 事業内容(リモートメール事業(個人))

### <5大特長>

- ① **4キャリア** (iモード、au、softbank、WILLCOM) の **公式サービス**。
- ② 有料ユーザー数25万人の **携帯メールNo.1サービス**。
- ③ **10年間**の運用実績
- ④ 高度な **セキュリティ環境**
- ⑤ 月額 210円 or 315円 の **低料金**

携帯で使える新しいメールアドレスが取得できたり、異なるキャリア間でも共通の絵文字が送れるなどのプライベート機能が充実。

キャリアを変えても同じメールアドレスが利用できる。



**リモートメール**は、家や会社のパソコンに届いたメールを、携帯電話で「読む」「送る」ことのできるサービスです。

携帯電話を2台目のパソコンのように使いこなそう

携帯電話を2台目のパソコンのように使って、いつでもどこでも自宅やオフィスにいるのと同じ感覚でメールを読んだり、書いたり。パソコンメールソフトとほとんど変わらない機能操作が行えます。

 <p><b>受信文字数無制限で長いメールも安心</b></p> <p>どんなに長いメールでも、途中で切れることなく最後まで読めます。</p>	 <p><b>メールに書かれた住所をクリックするだけで地図を表示</b></p> <p>メールの本文中に書かれた住所から地図を表示します。</p>
 <p><b>画像はもちろん、WordもOK！ 添付ファイル閲覧機能</b></p> <p>画像ファイルはもちろん、Wordなどのテキストファイルも閲覧できます。</p>	 <p><b>自由に使えるメールアドレスがもらえる</b></p> <p>自由に使えるメールアドレスが最大5個までもらえます。</p>
 <p><b>リモートメール専用アプリで パケ代最大80%カット</b></p> <p>専用アプリ「半パケ」でリモートメールを利用するのにかかるパケット代を最大80%節約できます。</p>	 <p><b>遊べる機能も充実！</b></p> <p>他社携帯に絵文字が送れる「絵文字メール」や、今日の運勢を占える「おみくじ」メールなど遊べる機能も充実です。</p>

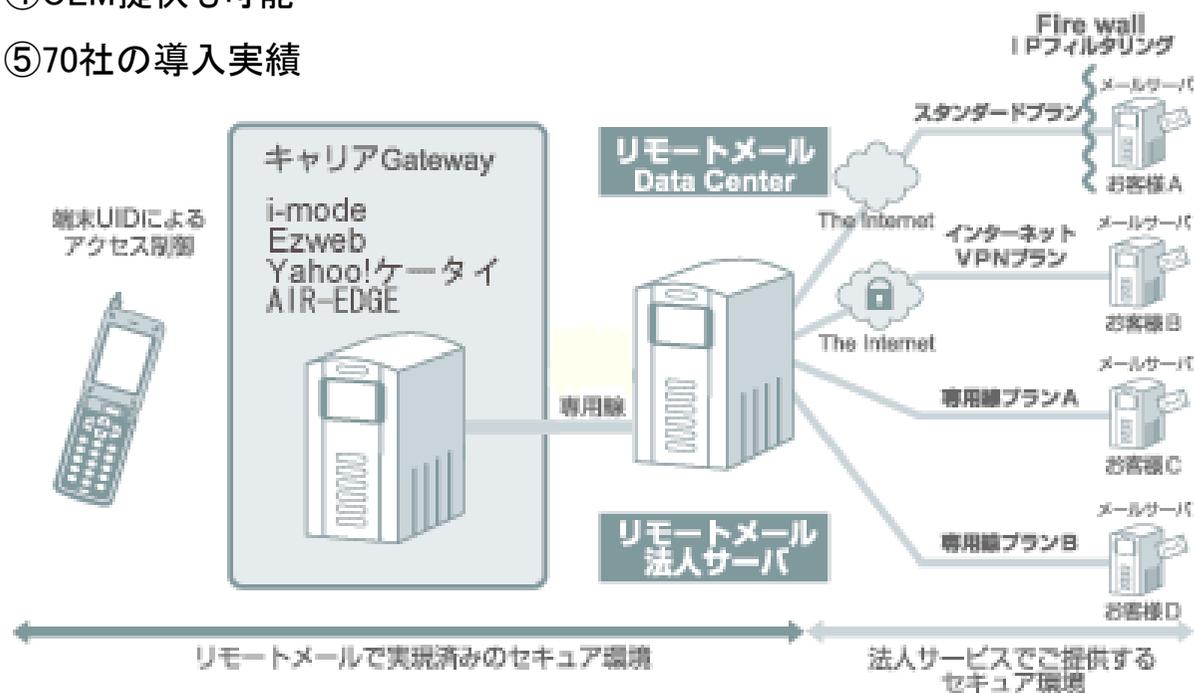
## ■ 事業内容(リモートメール事業(法人))

### <5大特長>

- ①セキュアなネットワークインフラ
- ②3重の高度なセキュリティ  
(管理ツール、UID、アクセスキー)
- ③2万円からの低価格
- ④OEM提供も可能
- ⑤70社の導入実績

利用者を限定したり、利用履歴  
が分かる管理機能が充実。

個人情報保護法の施行や内部  
統制強化の中でニーズが拡大。

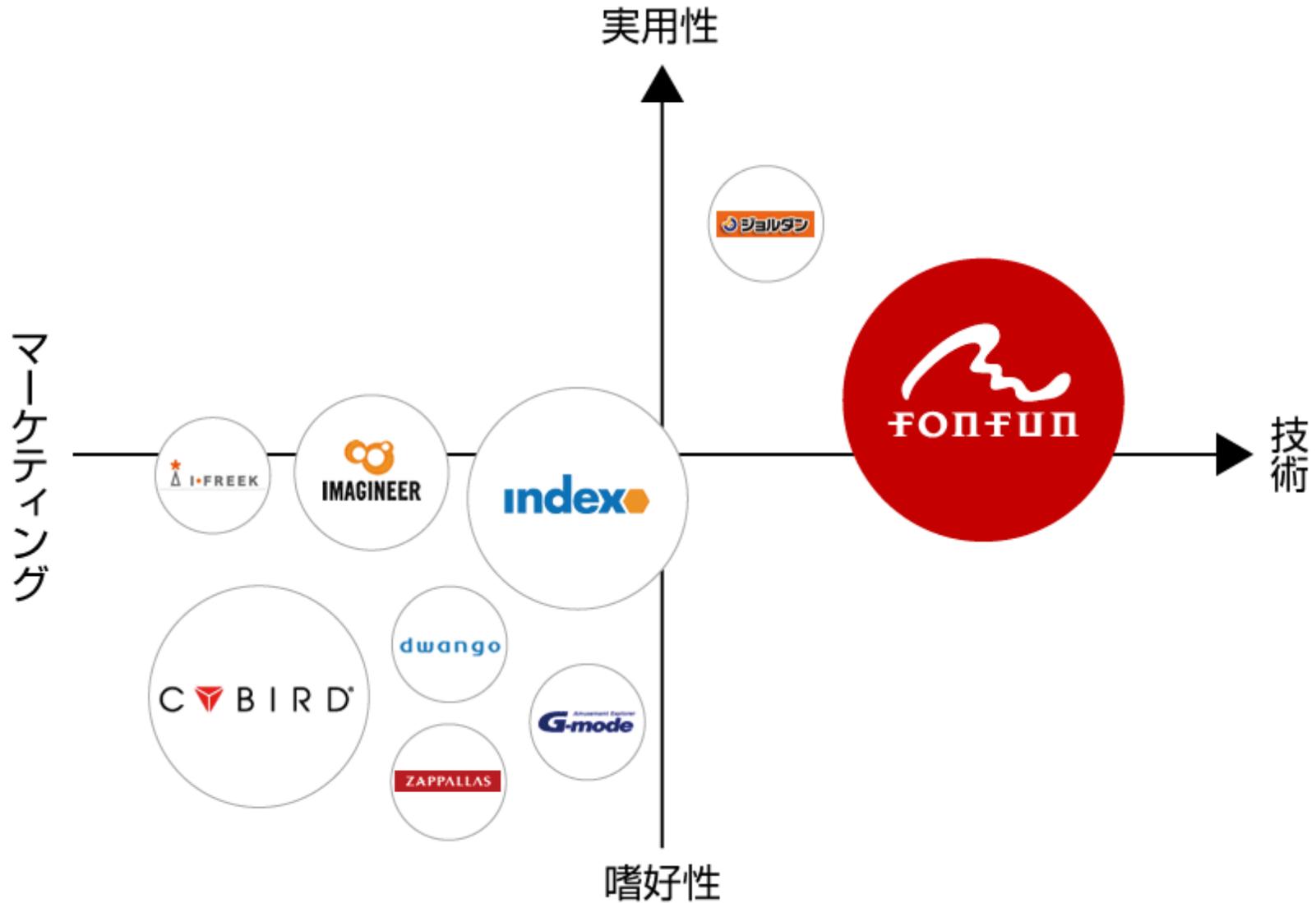


## ■ 事業内容(コンテンツ事業)

自社企画、コンテンツホルダーとの提携などにより、公式サービスとして、4キャリア向けにゲーム、情報サイト、ショッピングなど、20サイト以上のサイトを運営。



## ■ 業界(公式コンテンツ:3,661億円市場)内でのポジション



モバイルサービスを企画～制作・開発～運営～販促～サポート  
までワンストップで提供

①携帯通信会社 (Carrier Relation)

- ・国内4キャリア (DoCoMo, KDDI, Softbank, WILLCOM) 全てに公式コンテンツを提供できる数少ない企業

②技術力 (Technical Capacity)

- ・インターネット・モバイル両分野での高い技術力と情報蓄積

③制作・運営 (Produce & Operation)

- ・9年間、提供総数200個を超えるコンテンツのプロデュース実績と運営ノウハウ

④セキュリティ (Contents Pipeline)

- ・4つの携帯通信会社との閉域網のサービスインフラを保有